

2009年1月7日 さわやかな瀬戸をつくる会配布資料： 鹿児島県阿久根市長の施政姿勢

■2009/01/06 (火) 竹原信一の方針

仕事始め式あいさつ

あけましておめでとうございます。

市民の皆様のおかげで私たちの仕事があります。

市民の皆様に私たちは守られている。

そのことを決して忘れてはならない。

以上

課長会あいさつ(要旨)

○8時半からは万全の体制で仕事が始まらなければならない。それが、まず出来ない。

○来週からは、課長会は8時からやります。

そして、8時半からは伝達事項等が現場に反映され、命令・指示が末端まで伝わり、その動きができるようきちんとやってもらいたい。

自分が器でないと思ったら早めに降格を申し出てもらいたい。

8時半に出てくるような職員は話にならない。

責任感があるならば、時間にはきちんと準備ができていて、時間になったらきちんと自分の仕事ができるということが当たり前です。

それさえ出来ない職員は辞めてくれるように言ってもらいたい。

○厳しくということではない。自分自身が一市民となったとき、このような市役所であって欲しいと思う方向を見たら、どうすべきか、どうしたらよいか、どうしたら喜んでもらえるか、ということを考えていけば、それを厳しいとは言わない。

こうしたら喜んでもらえる、これをしたら成果があがると考えることは楽しいはず。そういうふう意識を向けていただきたい。

それが本当の仕事のあり方だと思う。

意識の転換をしてください。

○お互いに喜んで仕事をする、市民の皆さんと暮らしを共にするという気持ちでやってもらいます。

※多くの職員は、市民がどれだけ切ない思いで生活しているかわかっていない。

そのような人たちを高給で養っていると思う時、市議会議員たちほどは嫌われていないにしても、市民には職員が目障りな存在としか映らないのだ。

■2009/01/05(月) 成人式 式辞

新成人の皆様、本日は誠におめでとうございます。

心からお喜びとお祝いを申し上げます。二十歳になったことで皆様は法的に成人とみなされます。

法律上、成人はどのような扱いをされるかといえば、まず、投票する権利と責任が発生します。

パチンコ、競馬、飲酒もできます。

どういう訳かニコチン中毒になることまで許されています。

よく考えて判断しなければ詐欺などにあってつらい人生を歩むこととなります。

自分だけが良い思いが出来るなどということは決してありません。

大人の社会は甘くはありません。

少年法上の保護はなくなり、罪を犯した場合の扱いはもちろん厳しくなります。

しかし他人の視線や評価をあまり気にすることはありません。

心配も度が過ぎると、人としての活力が失われてしまいます。

また、世間の評価というものはとても移り気です。

心の杖にはなりません。

私は「他人からの評価を自分の目標にしない事」にしています。

皆さんは二十年生きてこられました。そしてこれから百年以内には必ず死にます。

そのうち肉体は土に戻り、皆さんに関する記憶は人々から忘れ去られます。

人は次から次へと生まれ、そして死んできました。

これは木が、古くなった葉を落としてはまた若葉をつけて生長していく姿に似ています。

わたしたちは見知らぬ他人や自然の働きがあって生まれました。

もともと人には保身など考えなくてもなんとかなってしまう不思議な力があります。

自分の直感と良心に従ってやるべき事を懸命にやる。

そして勇気を持って、おおらかに過ごしてください。

恐れが問題を大きくします。

度を過ぎて怖がるから争いになり、争いが恐怖を生むという悪循環になります。

「全ての命が同じ木につながっている葉っぱであること」を忘れないでいただきたい。

人生は終わりの時まで何とかなってしまうもの、私はそのように信じています。

本日の式典は 十名の新成人の方が実行委員会を組織され、企画から運営にいたるまで自分たちの手でなされています。

実行委員の皆様のご献身的なお仕事に心から敬意を表します。

終わりに、ご列席の皆様のご健勝を祈念して式辞といたします。

平成二十一年一月五日

阿久根市長 竹原 信一

■2009/01/03(土)「市政改革と議会の刷新をします。」1

年頭のごあいさつ

阿久根市民の皆様、あけましておめでとうございます。

市民の皆さまの市政へのご支援、ご協力に対して心よりお礼申し上げます。

私が昨年9月11日、阿久根市長に就任させていただいてから約3ヶ月半になります。

私は「市民の痛みがわかり、市民と苦労を共にする阿久根市役所と市議会に作り変えます。」と申し上げました。必ず成功させます。

私は、3ヶ月半の間に市民懇談会を既に6回、市政モニター会議を1回おこなった他、数回の市政説明会をさせていただいて皆様のご意見を生かす市政改革をしてきました。

職員駐車場の開放や医療費補助の手続き簡素化、市役所玄関の段差解消などは成果の一部です。

今、「市議会議員連合」を自称する12名の議員が市政改革の妨害をしていますが、これら議員の悪影響を排除するよう対策をとります。

12名が反対した教育委員のおひとりは教育長代行の総務課長として採用しました。

実力のある方です。必ずや教育改革を成功していただけると確信しております。

教育予算も増額します。

鶴翔高校支援宣言もいたしました。

阿久根の学校教育はもっと良くなります。

それから、従来とは格段の厳しさで職員の意識改革に取り組んでいます。

私は毎日、自分で窓口の状況を見回っており、苦情も直接お聞きするなどして改善に努めています。

阿久根市役所では、以前まで当たり前の躰がほとんどなされてきませんでした。

役所に都合のよいやり方が許されてきました。

仕事納めでは職員に「仕事があり、給料やボーナスを貰え、安心して休みがとれる、全ては市民の皆様のおかげである、肝に銘じておくこと。

休みの間も市民の皆様と接して皆様の願いを感じて、体が自然に反応するようになってもらいたい。」と意識改革を求める訓示をしました。

今の阿久根市議会には議員定数削減案や手数料値下げ案、副市長と教育委員人事案、市長給与とボーナス削減案などの議案に反対したほか、浄化槽管理費軽減措置への反対や妨害をしています。

■ 2009/01/03 (土) 「市政改革と議会の刷新をします。」2

私が職員専用であった駐車場を市民用に明けさせた事に対して、「連合議員」の中に「職員が雨に濡れる。」などと抗議した議員がいます。

また、職員による市内飲食店の利用促進を図ろうと倫理規則の一部を改正したところ、「不正を行ったことで免職になった職員には市長が給与と退職金を保証するのか。」という呆れた発言もありました。

「阿久根市は会社ではない。」とか「職員と良く調整を図るべき。」などというのがあります。

「市民を無視しろ。」と言わんばかりです。

また、浄化槽管理費の軽減を目的とした規則の改正には、その撤回を求めて「規則を年度途中で変えれば既存事業者のためにならない。」とか「今までの事業者に市長が頭を下げろ。」などと発言する議員までいます。

その他にも議員には公費の領収書詐欺や陳情した市民への脅迫、不正のかばいあいなど立場の私物化があります。

そもそも市議会議員は年間 400 万円あまりもの報酬が見合うような働きはしていません。

議員の公務は年間延べ 30 日もないのです。

市民の皆様の厳しい状況から見ても市議会こそが度を過ぎて野放図だと言わざるを得ません。

私は「自分はこの議会には不信任である、議会は市長不信任を可決して解散してもらいたい。」と発言しました。

市長から否定された議会は解散して民意を仰ぐべきです。

しかし、ひたすら生活費目的となってしまった議員には民意を問う勇気も誠意もありません。

市民の皆様から求められた市民と議員との公開懇談会さえできないでしょう。

今年の 12 月には議員の改選があります。有権者の皆様には日当制と定数削減に向けた議会刷新へのご協力をお願い申し上げます。これによって議会の質を上げて経費も削減します。職員の意識改革も大きく進みます。

有権者の皆様が真に全体のためになる議員を求められるならば、阿久根はもっと住みよい所にすることができます。

私は弱者や低所得者を見捨てることのない、そして夢を育むことのできる阿久根づくりを目指しています。

今後とも阿久根市政に遠慮のないご意見や積極的なご参加をくださいますよう心からお願いして年頭のごあいさつとさせていただきます。